

令和6年度第2回浜田地区教科用図書採択協議会議事録

1. 日時	令和6年7月12日(金) 9時07分から16時16分まで
2. 場所	江津市職員会館 会議室
3. 出席	教育委員会代表： 岡田教育長(会長：浜田市)、武田教育長(大田市)、堀教育長(江津市)、宇山教育長(川本町)、阿川教育長(美郷町)、大橋教育長(邑南町) 保護者代表： 坂田大田市PTA連合会長(大田市) 事務局：山口課長、鳥居室長、上野係長、佐々木
4. 協議・確認事項	(1)教科用図書調査研究報告、質疑 (2)教科用図書採択審議、選定 (3)その他
事務局	第2回浜田地区教科用図書採択協議会を開催する。 会長あいさつをお願いします。
会長	今日の会議は、令和7年度から使用する中学校用の教科書について、調査員代表者からの報告を受け、協議会として教科書を選定することを目的としている。 調査員は多忙な中調査・研究に当たってもらい、大変だったと思う。教育長方も、機会があれば調査員へ感謝の言葉を伝えていただきたい。 協議会に求められるのは公平・公正な採択である。調査員代表者からの報告を参考に、丁寧な採択事務を行っていききたい。 また、本日の結果を各市町の教育委員会へ持ち帰って協議していただき、その結果をもって第3回協議会で最終決定する流れとなる。 長時間の会議となるが、よろしくをお願いします。 では、本日のスケジュール等、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料により説明
調査員代表	(1)教科用図書調査研究報告、質疑 理科 調査研究報告(資料3) 推薦図書はA社のもの。 理由としては次のとおり。 ○各ページ下にある、学びのフローチャートを確認することにより全体の中で、今どの活動を行っているか確認できるようになっている。

- 必要な場面で、実験、観察結果をまとめる方法(レポート、グラフなど)も示されている。
- 各章のはじめには、章を貫く問い Before&After があり、生徒が学習で学んだことを実感できる構成になっている。
- QR コンテンツが豊富である。(実験の手順、ワークシート、資料動画など)
- イラストや写真が大きくなり、視覚的にわかりやすいレイアウトになっている。
- 「じっくり探究」が設定してあり、探究のしかたを意識して学習できる。
- 章末にある「学びを生活や社会に広げよう」では、学習した内容と身のまわりの事象と結びつけて考えることができる。
- 学習事項が日常生活とどのように関連し、利用されているのか「まちなか科学」として紹介されている。
- 章内の例題・問題から章末の活用問題までステップアップしながら学力向上を目指している。

質疑応答

- | | |
|-------------|--|
| 委員
調査員代表 | Q. A 社の問題量は適正であるか。
A. どの教科書もだが、適正かと問われると難しい面はある。十分とは言えないが、ある程度の量は掲載されている。 |
| 委員
調査員代表 | Q. A 社は他社よりも問題量が豊富な印象を受けたがいかがか。
A. 他社もあまり違いは無い。 |
| 委員
調査員代表 | Q. イラスト、写真などで生徒が理解しやすいような工夫は見られたか。
A. 従来よりも写真が非常に見やすくなっている。また、QR コードを用いて、デジタルで実験の手順確認も可能になっている。 |
| 委員
調査員代表 | Q. 現行教科書と推薦教科書の間で大きく変わった特徴は何か。
A. 教科書のサイズが大きくなったことや、配置が工夫されたことにより、図が見やすくなっている。 |
| 委員
調査員代表 | Q. デジタルコンテンツの中身は各社大きな違いはあるか。
A. 教科書によっては、NHK for School に直接繋がるものもある。一概には言えないが、非常に見やすく実験も行いやすいという印象。 |
| 委員
調査員代表 | Q. タブレットを持ち帰って家庭で実験の様子を確認することもできるということか。
A. そのとおり。 |
| 委員
調査員代表 | Q. 各教科書の、同学年の同単元間における内容の構成比較をしなかった理由はあるか。
A. 特にない。 |

美術

調査研究報告 (資料 3)
 推薦図書は I 社のもの。
 理由としては次のとおり。

○美術科で学ばせたいことが明確

中学校の3年間で学ばせたいことや重視したいことが、大きく取り上げられており、生徒にとっても伝わりやすく訴える力が強くなるように工夫されている。1年生では基礎・基本を重視し、2・3年生では歴史や社会との関係に視野を広げる等、生徒の発達段階に配慮した構成になっている。

○発想・構想を支えるページの充実

一題材を、参考作品の鑑賞、表現（発想・構想）、関連作品の鑑賞の順に構成し、学習の過程が工夫されている。「POINT」で造形的な視点を示すことで、生徒が共通事項の視点から制作に取り組むことができるように工夫されている。また、表現において「みんなの工夫」として全国の中学生の発想・構想が作者の言葉と写真で掲載されており、多様な考え方に触れたり、発展的な学習につなげたりすることができる構成になっている。

○動画資料の質の高さ

表現のページでは、制作面で発想・構想を支えることができるようにQRコード「作者のインタビュー動画」や「全国の中学生の作品」が充実している。また、鑑賞中心の題材では5分程度の「解説動画」や「音声ナビ」、「書き込みツール」などによって、生徒が体感しながら深く鑑賞できるように工夫されている。

○レイアウトの工夫

3年間使用できるコンパクトな別冊資料に知識・技能をまとめることで、利便性を高めている。日本絵画の鑑賞のポイントを整理した和紙のページを設け、日本文化や海外の文化との関連についての学習が深まるよう工夫されている。また、中学校で特に学ばせたい、国内外の代表的な作品や作家については、特集ページを設け見開きや大判で掲載したり、美術用語についても大きなフォントで強調したりするなどのレイアウトの工夫がされている。

質疑応答

委員

Q. D社とI社との間で使いやすさ等に大きな差はあるか。

調査員代表

A. D社も様々な工夫がされているが、使いやすさの面で悩んだのはI社とO社。

委員

Q. 推薦教科書以外の教科書の良さはどのようなところにあるか。

調査員代表

A. O社は、良さであり難しさでもある面だが、1年生1冊と、2・3年生は上下2冊の計3冊に分かれている。それによってページ数が充実している面もあるが、生徒が「2年生は上、3年生は下」という印象を持ってしまい、上下を2～3年生を通じて用いるという感覚を失う生徒もいる。

I社は、各単元の開始時に、QRコードを用いてどのような視点で学びに取り組むか動画で解説されている。

委員

Q. 小規模校での活用にも言及されていたが、その面でも推薦教科書が他の教科書に比べて突出していたか。

調査員代表 A. デジタルコンテンツで立体的な構図を確認したり、I社のウェブサイトに掲載されている多くの他者作品を鑑賞できる点で、小規模校にとっても優れた構成になっている。

国語

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

- QRコンテンツを増やしたことで総ページ数を削減し（約40ページ）、コンパクトで扱いやすくなっている。
- 1年生はフォントが大きく、見やすい。また、イラストが増え、これまでの2段構成が小説教材で1段構成になり、視覚的に読みやすくなっている。
- 「話す・聞く」領域では、「学習の流れ」を、動画で確認しながら見通しを持ち、個別のつまずきに応じて支援するQRコンテンツが示されている。（1年P174、178）
- 「書く」領域では、食文化や地域の魅力（2年P68）など、身近で取り組みやすい題材を用いている。また、お手本の文章で学ばせ、手立てを具体的、視覚的に学習しやすいようにしてある。
- 「読む」領域ではてびきで学習の流れを段階的に詳しく解説しており、学習の進め方や方法が分かりやすい。（1年P108）
- 「読書への招待」や「読書案内」や「読書活動」の充実が図られるなど、生徒の豊かな読書生活を支援する工夫がされている。読書活動（1年「本のポップ」（P188）、2年「ビブリオバトル」（P182）、3年「私のベストブック」（P186））
- 教材の冒頭に示す目標を生徒目線の問いかけの形にするなど、生徒にとって身に付けたい力や着目すべき点が分かりやすい工夫がされている。（1年P16）
- 巻末デジタルコンテンツ一覧から、家庭での予習や復習に使えるコンテンツにアクセスできるようになっている。
- 色褪せない名作、感性を豊かにすること等をテーマにした新教材（「未来を考えるための9つのテーマ」）が魅力的である。（1年P227）

質疑応答

会長 Q. ページ数が削減されたとのことだが、指導でのメリットになるか。QRコードやタブレットを活用しなければ授業が行いにくいということはないか。

調査員代表 A. 同時に同じものを見る場合には教員がモニターに表示して対応する。ページ数が減ったのも、巻末資料がデジタルコンテンツに移行したためで、本編はむしろ見やすくなっている。

委員 Q. 推薦教科書を使う教員の立場から、デジタルコンテンツを使わなければならないという思いになるか。

調査員代表 A. なると感じている。

書写

調査研究報告（資料3）

推薦図書はI社のもの。

理由としては次のとおり。

- 毛筆書写教材が豊富で、半紙原寸大の手本が多く使いやすい。
- 書写ブックは取り外して使用でき、紙質も練習させるのに適している。
- 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という展開が一目でわかるよう簡潔で見通しが持ちやすい。
- 「学びのカギ」によって学習内容を振り返りやすい。
- 「日常に役立つ書式」によって教科横断的な学習を可能である。
- 多様性への配慮がされている。（色覚特性、利き手、キャラクターの服装など）
- 動画等の2次元コードのコンテンツが充実しており、生徒の主体的な学びを支えることができる。
- タブレットを使った学習の方法の紹介があり、新しい文具を活用している。

質疑応答

委員

調査員代表

Q. 多様性への配慮について具体的に教えていただきたい。

A. 鉛筆の持ち方について、右手用と左手用に解説動画が分かれている。色覚特性に関しても配慮されている。また、登場するキャラクターの服装も男女区別ないデザインとされている。

会長

Q. 推薦教科書はタブレットを活用しやすいものになっていると感じる。また、半紙が原寸大で表されているとのことだったが、これらは推薦教科書のみの特徴か。

調査員代表

A. 半紙が原寸大表されているのは推薦教科書のみ。デジタルコンテンツも充実していた。

会長

Q. 推薦教科書は現行の教科書と異なる発行者のものだが、それに関する受け止めは。

調査員代表

A. 学習指導要領に沿った形になっているので、学年が上がって発行者の異なる教科書になっても問題ないと考えている。

社会（地理）

調査研究報告（資料3）

推薦図書はJ社のもの。

理由としては次のとおり。

- 「世界と日本の地域構成」は8時間、「世界とのさまざまな地域」は41時間、「日本のさまざまな地域」は56時間、「地域のあり方」に5時間の配当時数となっている。特に「日本の諸地域」の内容が非常に詳しく記述してあり、より詳細に学習することができる。

- 写真や地図やグラフ等の資料が多く記載され、詳しく学習できる構成になっている。写真や地図も大きく、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。
- 巻頭の「教科書を活用した学び方」では、主体的な学びや対話的な学びについてわかりやすく説明されている。
- 「日本の領域と特色」の学習では、竹島について本文記載があり、写真や地図が掲載されている。さらに、2月22日が竹島の日であることや昔の竹島の漁業についても記述されている。
- 「技能をみがく」の内容が多く記載され、資料の読み取り方や地形図の使い方等、基礎的な技能を身につけることができるよう工夫されている。
- 巻頭の「教科書を活用した学び方」では、QRコンテンツについてわかりやすく説明し、家庭学習に活用できるよう工夫されている。また、内容も充実しており、授業で活用しやすい構成になっている。
- 単元末の「学習を振り返ろう」では、知識を確かめ、段階を踏みながら、地理的な見方・考え方を働かせて学習をまとめることができるよう工夫されている。

質疑応答

- | | |
|-------|---|
| 委員 | Q. 前回の採択に当たっては、地図に凹凸があり、立体感の感じられるものがあつたと記憶しているが、今回そのような部分はあつたか。 |
| 調査員代表 | A. 今回の改訂でデジタルコンテンツに移行したものと思われる。 |
| 委員 | Q. 地図と同じ発行者の教科書が授業を行いやすいか。 |
| 調査員代表 | A. 同じ発行者が良いとは思いますが、地理の教科書でも内容は充実しており、必要な部分は網羅されている。 |
| 委員 | Q. 竹島という観点で比較した際に、推薦教科書は他の教科書より優れていたか。 |
| 調査員代表 | A. 2月22日が竹島の日と言及されている点大きい。 |
| 会長 | Q. 推薦教科書は写真や地図などの資料が多く掲載され、さらに大きく見やすいとのことだが、ボリュームは他の教科書に比べ大きくなっているのか。 |
| 調査員代表 | A. 各教科書とも同程度のボリュームである。本文、資料、デジタルコンテンツどれもボリューム感はある。 |
| 会長 | Q. 推薦教科書を採択すると現行の教科書から発行者が変更となるが、どのように受け止めているか。 |
| 調査員代表 | A. 内容を重視して選定した。ボリュームもあるが、押さえるべき部分は押さえている点でより使いやすいと考えている。 |

社会（歴史）

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

○QRコンテンツが豊富で、効果的に配置され、生徒が主体的に学び、

資質・能力を高めることができる。

- ・個別最適な学びや協働的な学びを意識し、導入、展開、まとめの学習段階に応じた QR コンテンツが配置されている。
 - ・生徒は生徒端末を使って QR コンテンツを読み込んでワークシートを取り出し、資料から読み取ったことや学習のまとめを記入することができ、主体的に学習に取り組むことができる。家庭でも学習することができる。
 - ・教科書の構成において、どの単元も課題解決学習の流れ（課題の設定→探究活動→課題解決）が一本化されており、生徒が見通しをもって学ぶことができるよう工夫されている。
 - ・思考ツールが豊富にあり、生徒は学習した内容を整理したり、考察したりしやすくなっている。
- 島根県に関連する資料や事象が掲載され、島根県への理解と親しみが深まる。
- ・出雲神話、石見銀山、竹島の歴史、森鷗外
- 同和問題学習について、各時代で適切に扱われている。
- ・「解放令」から水平社への内容（P240～241）は、特に詳しい内容となっている。
- 生徒の多様性に配慮されている。
- ・カラーユニバーサルデザインの導入、UD フォントの導入など

質疑応答

- 会長 Q. 現行発行者の教科書の総括にも、導入から振り返りに至るまでの見通しが持ちやすく、デジタルコンテンツも効果的と説明があったが、その面で推薦教科書との差は見出せるか。
- 調査員代表 A. 同じ内容を扱ったページにおいて、J社の教科書では QR コードが掲載されていないが、A社の教科書では掲載されている。A社は毎時間デジタルコンテンツが活用できる構成になっているため、導入から授業のまとめまで生徒が各自で行える。このような点で、A社の方がより主体的に学習に取り組めると判断した。
- 会長 Q. 発行者が変わることについて教員の立場からどう思うか。
- 調査員代表 A. 授業で用いていた資料などは作り直すことになるかもしれないが、一人一台タブレットを持っていることを考えた際に、デジタルコンテンツが充実している方がより生徒の興味を引き、主体的な学習に取り組めるという観点で選定した。
- 委員 Q. QR コードが充実しているということは、教員にとっては板書の機会は減ることになるか。
- 調査員代表 A. 現在は、板書は減らしていく流れになっている。課題を追求し、解決するという活動においては、板書して書き写すだけでは求められる能力が身に付かない。板書は減っている。

社会（公民）

調査研究報告（資料 3）

推薦図書はJ社のもの。
理由としては次のとおり。

○QRコードの利用

QRコードでアクセスできるページが便利で、タブレットを使った学習が行いやすい。QRコードにアクセスすることで、多くの思考ツールについての動画を閲覧することができ、それぞれのPDFも活用することができる。

○本文表記及びレイアウト

写真資料が大きく、本文の内容表現も平易で教科書の内容を理解しやすい。資料と本文の配置に工夫があり、視認性が高い。図説などが非常にわかりやすく、視覚教材も生徒が分かりやすいよう工夫されている。

○他分野との関連

小学校、歴史、地理の既習事項が章の初め、見開きの下部に記載され、関連付けしやすい工夫がなされている。「地図帳活用」のアイコンが準備され地図帳活用がはかれるようになっている。

○学習の流れ

単元の冒頭で見やすいイラストや写真を用いて、単元を貫く問いを設定し、章末の「学習を振りかえろう」で単元を貫く問いを思考ツールなどを用いて、わかりやすくまとめることができるようになっている。また、掲載資料の活用の視点を示すことで、学習がしやすくなっている。

○家庭学習

章末のまとめページが図を用いて簡潔に取り組むことができる。発展的な学習や各章ごとに探求課題を設定するページも見やすくわかりやすいため、生徒が学習に取り組むやすい。

○興味・関心

「公民プラス」のコラムで、最近の話題が多く記載されており、生徒が興味・関心を持ちやすい。「アクティブ公民」でシミュレーション型の課題を設定することで、社会参画を疑似体験できるよう工夫されている。

○地域課題

竹島については、本文にてふれてあるが、QRコードの他分野リンクを利用することによって、歴史教科書の記述を確認し、竹島問題について学ぶことができるよう工夫されている。また、「地図帳活用」のアイコンで竹島の位置を詳しく確認できる。

質疑応答

- 委員 Q. 推薦教科書におけるSDGsについての取り組み、考え方について教えてください。
- 調査員代表 A. 章末や巻末でSDGsの関わりが掲載され、生徒が主体的に考えられる構成になっている。
- 委員 Q. 横断的な取り組みとして、地理ではどのような学習をしたかという

- 振り返りという点は、推薦教科書以外には無かったか。
- 調査員代表 A. 他の教科書では、どのページにも掲載しているものは無かった。A社はQRコードで地図との関連を確認できる工夫はされていた。ただ、J社が最も優れていた。
- 委員 Q. 竹島の記載について説明があったが、地理と発行者が異なったとして、学習に支障はあるか。
- 調査員代表 A. デジタルコンテンツを用いて、J社の他種目の関連箇所を閲覧可能なため、不都合は無いと考えられる。
- 会長 Q. 社会の他種目と発行者を統一した方がより使いやすいのか、それほど影響はないのか。
- 調査員代表 A. デジタルコンテンツが充実してくると発行者が異なることによる障壁は徐々に減ってくると思う。異なる発行者でもそこまで困ることは無い。

地図

調査研究報告（資料3）

推薦図書はJ社のもの。

理由としては次のとおり。

- 文字、色のバランスや背景などが見やすい。土地の起伏や高低が微妙に違う色分けで表現されている。（色見が薄い）
- 地図帳の使い方が最初に丁寧に詳しく説明されている。小学校での既習事項を確認する項目もあり、スムーズに中学校の学習へ進められる。
- 土地利用や地図記号などが各ページに記載されており、使いやすい。
- 日本の対蹠点や日本の同緯度の位置を示すなど、思考力を高め、位置関係を理解しやすい。
- もくじにSDGsや歴史公民の分野で活用できるページが記載されており、見通しをもって他分野と関連付けた授業ができる。
- 歴史的な視点からも各地域の特色を見られるように、その地域の歴史に関する資料や地図中にも歴史的な事件が起きた場所、船の航路などが掲載されている。（P93、P89）
- 平面の地図だけではイメージしにくいのが、鳥瞰図と並べて記載されていることで、立体的に地形や位置を視覚的に読み取りやすい。（P29～30、P47、P65～66）
- 「地図で発見」にチェック項目があり、学習内容も確認とともに、生徒が達成感を持つことができる。
- 「地図で発見」は比較的読み取りやすいものや、自分の生活に根差した問いが多いので、授業の導入に利用しやすく、主体的な学習を促す（宿題にして導入で聞くとよい）。
- 個人でも取り組めるものとグループで調べ学習できる課題とがあり、授業後半の発展的な学習にも応用できる。
- 資料を使って追究できる課題が設定されており、現状や原因、取り組みなどが紹介されているため、調べ学習や協調学習などに取り組

みやすい。(P9、10)

- 台風や発生する仕組みや地震のメカニズムがイラストで示されているためイメージしやすく、他教科の既習事項を振り返りながら関連付けて学習を進めることができる。
- 写真やイラストを使って、日本の各地域で起こりうる（起きた）災害の被害やその対策を詳しく紹介しており、防災学習の充実を図れる。
- QR コンテンツ中の「NHK for school」とリンクした動画を使用して、振り返りやまとめに取り組みさせることができる。

質疑無し

数学

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

- 「大切にしたい数学の学び方」や「この本の構成と使い方」では、生徒が見通しをもち、主体的に学習できるように教科書の使い方が丁寧に記載されている。(1年巻頭-P10)
- 章末の問題はA、Bの2段階で構成されている。また、本文の練習問題等は生徒の主体性に合わせて問題量を追加し、個別最適な学びにも対応できるよう配慮されている。(2年P52～56)
- 章や節の最初に、これからの学習と関連した日常の課題が示され、解決の見通しをもたせ、章や節の学習につながるよう配慮されている。(3年P69、P85)
- 学習内容の系統性を重視し、スパイラルな学習や、円滑な指導が行えるよう内容の配列が工夫されている。(1年P11～18)
- 「数学のまど」「数学×仕事」では、身の回りの具体物の写真を使い、数学と日常生活が関連付けられ、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。(2年P89～91)
- 仕事の中で数学を活用している人を紹介し、生徒が数学を用いた日常の問題解決を体験できるよう工夫されている。(3年P122～123)
- 「活用の問題」「数学の自由研究」などでは、身の回りの題材を取り上げ、数学の必要性や有用性が実感できるような工夫がされている。(2年P56、P94、P233)
- 「もっと数学をつなげよう」には、「学びのベース/学びのマップ」「ふり返し/補充の問題」が設けられ、生徒一人ひとりに合わせた学習が展開できるように配慮されている。(1年P249～307)
- 授業を想定したQRコンテンツが多数掲載(1752種類)されており、「授業」や「自学自習」に活用できる。

質疑応答

Q. QR コードが圧倒的に多いと説明があったが、他の教科書はそこまで

委員

- 掲載されていなかったのか。
- 調査員代表 A. 推薦教科書の次に多かったのが L 社の 1,300 だが、その他は 1,000 程度で、300 程度のものもある。推薦教科書が圧倒的に多かった。
- 委員 Q. 学習者にとって QR コードはあった方が良いか。
- 調査員代表 A. 授業をする上でもあった方が良く、学習する面でも、頭でイメージできない場合に動画で解説を確認することができるため、ある方が望ましい。
- 委員 Q. 推薦教科書は現行の発行者と同一だが、現在使っている中でこうなったら良いと思った部分が改善されているという理解で良いか。
- 調査員代表 A. 現在 100 程度の QR コード数が圧倒的に増えており、そうした面でも改善したと捉えている。
- 委員 Q. 授業の中で ICT 活用が進むと考えて良いか。
- 調査員代表 A. 推薦教科書以外の教科書のデジタルコンテンツは、学習者側で操作できる要素が少ないが、推薦教科書は学習者が自分で操作して考えられる要素が多く、使いやすいと考える。

音楽

調査研究報告（資料 3）

推薦図書は H 社のもの。

理由としては次のとおり。

（一般）

- 話し合い活動を通じて学びを深めていく場が多く設けられている。（1 年 P26～27 ほか）
- 「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」では、楽しみながら楽譜の理解に繋げるための工夫がされていることに加え、創作活動への導入をスムーズにしている。（1 年 P16～17）
- 歌唱共通教材では、登場する写真やレイアウトが美しく、内容の理解を深めたり、情景のイメージを膨らませたりするために役立っている。（2・3 年上 P18～19 ほか）
- QR コード（学習に役立つコンテンツがウェブサイトにある）。発展的学習や家庭学習ができる。
- ページの構成、色の使い方、アイコンなどのバランスが整っており、見やすい。

（器楽）

- 曲の難易度が易しく、スモールステップで学習できる。
- リコーダー二重奏の副旋律が音楽的で、主旋律とのアンサンブルをより楽しむことができる。（P24 ほか）
- 基本的な奏法のレイアウトが工夫されている。特に、箏の奏法において、親指を左側、中指・人さし指を右側にしている配置が効率的で、見やすい。（P37）
- リコーダーの運指のイラストがシンプルかつ本物に近づけられており、分かりやすい。
- ギターの種類と比較や、箏のいろいろな奏法が一つのページにまと

められており、過不足ない説明となっている。(P27、41)
○創作へのつながりがスムーズで、発展的な学習ができる。(P43)

質疑応答

- 委員
調査員代表
委員
- Q. 一般について、各発行者の選曲に違いはあるか。
A. 特に差があるとは感じなかった。
Q. G社については、ジャンルや時代を問わず多くの名曲が取り上げられているとのことだったが、H社はどうか。
- 調査員代表
- A. どちらにも掲載されている曲もあり、そこまで違いは感じなかった。器楽の方は、選曲という視点においてはG社の方が良いと感じられる部分もあったが、総合的に考えるとH社がより良いという考えになった。
中学生からアルトリコーダーを活用するようになる。その導入からスモールステップで進む構成になっており、音楽の苦手な生徒にとっても取り組みやすい。
- 委員
- Q. G社には国歌「君が代」の説明があったが、H社の国歌の取り扱いはどうなっているか。
- 調査員代表
- A. どちらにも国家「君が代」の記載がある。H社は、各学年それぞれ最新の写真が用いられており、生徒が興味・関心を持ちやすいようになっている。G社はさざれ石の写真を用いて、生徒が疑問を持つ事柄に対して分かりやすくなっている。また、松江市の写真が掲載されている部分もある。
- 委員
調査員代表
- Q. 一般と器楽は同一発行者の教科書が良いという考えもあるか。
A. 調査員でもその部分を検討し、同一である方が扱いやすいという見解になった。
- 委員
調査員代表
- Q. デジタルコンテンツはG社の方が充実しているか。
A. 内容や量は両者同程度である。一般・器楽を総合的に見て、より充実しているのはH社である。

保健体育

調査研究報告（資料3）

推薦図書はP社のもの。

理由としては次のとおり。

- 効果的な導入から、課題の解決につなげ、最終的には学習の理解度や進度、取り組みの度合いを確かめるものとなっている。
- UD フォントを利用していることや色合いやイラストが見やすく作られている。
- 文章が分かりやすくコンパクトにまとめられている。また、それを補うようにイラスト、表、解説が各ページ右に配置されており、教科書を読むことで理解が深まる構成になっている。
- 写真ではなく、意図的にイラストを多く採用していると思われる。それは、写真だと生徒によっては不快感を感じる生徒がいるかもしれないという配慮だと思われる。

- ギガスクール構想に即したデジタル教材が充実しており、授業者が生徒の理解を深められる内容となっている。資料として動画やCGがあり、これらをQRコードですぐ読み取り、確認することができる。
- これからの学びの変化に対応し、デジタル教材を充実させている。一方で、教科書を読んで理解していくことも大切だと考え、デジタル教材で視覚的、体験的に学びつつも、教科書を見て、読んでじっくり思考を巡らせていくことも大切だと考えていると思われる。

質疑無し

技術・家庭（技術）

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

- 巻頭に、技術分野の学習のながれ、技術の見方・考え方、安全な作業、デジタルコンテンツや思考ツールの活用について簡潔に示してあるので、教科の特性を理解しやすい。
- ガイダンスでは、技術の見方・考え方を働かせて問題解決に取り組むことが示されているので、教科のねらいを理解しやすい。
- 基礎技能を確認できる「Tech Lab」が問題解決学習の前に示してあるので、製作・制作や作業等に取り組みやすい。特に内容Aの「Tech Lab」において、該当する材料をアイコンとして示しているので、どの加工方法で行えばよいのかわかりやすい。
- 無料で利用できる動画や思考ツール等のQRコンテンツが豊富に準備してあるので、興味・関心を高めやすい。特に内容C「電気回路のシミュレーション」では、安全に配慮しながら思考を深める一助となっている。
- SDGs、STEAM、Society5.0等、技術分野の学習と結びつきが深いキーワードを取り上げているので、学習指導要領で求められている持続可能な社会の作り手になることを意識しやすい。
- 掲載されている情報量が適切で、免許外授業担当者にも理解しやすく、学習指導要領に基づいた指導を行いやすい。

質疑応答

委員

Q. 現行教科書と推薦教科書の発行者は同一だが、改訂してより使いやすくなったという判断か。

調査員代表

A. 全体的に情報量が増えているのは感じる。その中で、推薦教科書が最もバランスが良いと感じている。他の教科書に飛び抜けて秀でているものも無く、現行の教科書を継続した方が良いという判断もあった。

技術・家庭（家庭）

調査研究報告（資料3）

推薦図書は A 社のもの。

理由としては次のとおり。

- 多様性に配慮して、教師・生徒が使用しやすいデザインになっている。(カラーユニバーサルデザイン・ルビが多く振ってある)
- 教科書全体の構成が生徒の発達段階や興味関心を踏まえて配列されている。(ガイダンス→Aの一部→B→C→Aの流れ)
- 質の高い QR コンテンツを豊富に取り入れている。
- 導入の課題提示が生活に即している。
- 実習に関する資料の情報が多く掲載されている。
- 生徒の意欲を引き出す写真や資料が随所に掲載されている。
- 基礎技能の定着のための写真やイラスト、QR コンテンツが充実している。
- 「生活に生かそう」では家庭学習につなげられるように課題を提示している。実践レポートの具体例が多く取り上げられており、生徒が家庭で学習しやすい構成になっている。
- 共生への配慮や SDGs に関する内容も豊富に取り入れられている。

質疑応答

委員

Q. 小規模校では免許外で指導する教員も多いが、発行者が変更されることによる影響はあるか。

調査員代表

A. 前は D 社が採択されたが、それまでは A 社が使われていた。A 社から D 社に変わった際にも戸惑いはあったかもしれないが、向き合ってきた。教員の立場からはむしろ A 社に戻るという印象。

委員

Q. 現行の教科書よりも推薦教科書が使いやすいという判断か。

調査員代表

A. 使う教員の個人的好みはあると思うが、そういった理由もある。

英語

調査研究報告 (資料 3)

推薦図書は A 社のもの。

理由としては次のとおり。

- 各 Unit の始めに「GOAL」が明示されており、Unit の終わりには「CHECK」で目標に対する振り返りをすることができる。
- 1 年 1 学期の各 Unit に Sounds and Letters を掲載し、小学校で学習した単語を用いて「音と文字」のルールを学び、定着させるとともに、自分の力で読み書きのできるコツを身に付けることができるよう工夫されている。
- 1 年生の Unit5 から Read and Think が加わり、まとまった分量の英文を読む力や考える力、表現する力がつくことをねらいとしている。また 2、3 年では Read and Think の本文について「Round①概要・大意をつかむ」、「Round②詳細をおさえる」、「Round③表現につなげる」の 3 段階の読み方で英文を読む力の育成を図るよう工夫されている。
- Unit で学習してきたことを統合した言語活動として Stage Activity

があり、カナダからのビデオレターの内容をふまえて、相手意識をもって発信活動をおこなうことができる。また、多様な文化や価値観への気づきを促す「ダイバーシティメモ」がある。

- 各学年の巻末に「Expressions List」があり、Small Talk をする際に有効な表現を練習することができる。
- QR コンテンツには用例辞典、思考ツール、Activity Sheet、デジタルマップなどがあり、表現活動をサポートしている。また本文の音声や映像などの複数のデジタル教材があり、学校や家庭で音声を活用した学習を行うことができる。
- 食物連鎖やロボット、SDGs など、他教科と関連づけて学習を深められるような内容の工夫がある。また、異文化理解や人権、平和への取り組みなど、道徳との関連が深い題材が取り上げられている。

質疑応答

会長

Q. デジタルコンテンツを活用した学びという観点で特徴のあった教科書はあるか。

調査員代表

A. どれもデジタルコンテンツは非常に充実している。使い慣れているのは A 社の教科書。デジタルコンテンツもこれまでの何倍も増えている。A 社が突出しているのは用例辞典。一つ単語を入力すると、3 年間に学習するその単語を含んだ文章が一覧となって表示される。表現活動に有効であると感じる。

委員

Q. 小学校からの接続という観点のみで見ても、推薦教科書が最も優れているか。

調査員代表

A. その観点のみでは他の教科書も引けを取らない。小学校では書くことに重点は置かないが、中学校では書くことにも重点が置かれる。推薦教科書は文字に結び付けることに工夫が見られる。

委員

Q. 英語教育では表現する力が強く求められているが、発音やリーディングのチェック機能は推薦教科書にもあるか。

調査員代表

A. その機能は無かった。F 社にあったことを確認しているが、デジタルコンテンツの充実度では推薦教科書も引けを取らない。また、入試対策としてまとまった文量を読むことも必要だが、推薦教科書は読む力を育む構成になっている。

道徳

調査研究報告（資料 3）

推薦図書は A 社のもの。

理由としては次のとおり。

- 付録を含めて 35 時間以上の教材が記載されている。小学校教材も記載されている。
- 定番教材が、よりイメージしやすい挿絵とともに復活している。
- 紙面と動画が関連した教材があり、文章を読むことに困難さがある生徒も授業に参加しやすい。
- 読み物資料だけでなく、グラフから課題を見つけるなど、さまざま

な学び方が可能となっている。

- 全学年で、いじめや生命に加え、情報モラルや SDGs、多様性について考えるユニットがあり、それぞれ重点的に学習できるようになっている。
- 全学年で、新たに「防災道徳」の内容をとりあげている。
- 生徒が親しみやすい著名人が題材にされている。
- イラストや漫画が多く、生徒が関心をもちやすいように工夫されている。
- 内容が複雑な教材には、四コマ漫画が収録されているなど、理解を助ける手立てがある。
- 全ての教材に QR コードが教材に記載されており、これまで以上に学びが広がる工夫がされている。
- 全学年「プラス」が掲載されており、さまざまなタイミングで活用をすることができる。
- 各教材の最後に「考えよう」「自分を見つめよう」が設定されており、教材の内容と実生活の両面から深く考えられるように工夫されている。
- 「心情円」が巻末に付録としてついており、言葉で気持ちを伝えることが難しい生徒にも、自分の考えを表現できる機会が設定されている。

質疑応答

- | | |
|-------|--|
| 委員 | Q. 考える道徳・議論する道徳という視点から見ても、A 社が優れているか。資料を読んで、考え、議論することにも配慮されているという認識で良いか。 |
| 調査員代表 | A. その認識で良い。様々な題材がバランス良く取り上げられており、考え、議論する活動に役立つ。 |
| 委員 | Q. 様々なアプローチがある故に教員も授業の進め方に違いが出ることもあると思うが、それも踏まえて A 社が良いと考えるか。 |
| 調査員代表 | A. デジタルコンテンツがあることで、最適な資料が即座に提示できるため、教員の負担は減ると考えられる。 |

(2) 審議・選定

- | | |
|----|--|
| 会長 | それでは、各調査員から推薦された教科書について審議選定を行いたい。資料 5 をご確認ください、推薦された教科書発行社について一冊目ずつ確認していきたい。 |
|----|--|

《国語》 異議なし
《書写》 異議なし
《社会（地理）》 異議なし
《社会（歴史）》

- | | |
|----|--|
| 委員 | 歴史以外の社会種目は J 社が推薦されている。J 社だけでなく A 社の内容も勘案できると考えると、歴史を A 社とするのは問題ないと思う。 |
|----|--|

委員	<p>一方で、全ての種目で発行者を揃えるという考え方もある。どちらにしてもマイナスにはならないと思う。</p> <p>現場の意見を尊重すべきだと考える。</p> <p>→ 異議なし</p> <p>《社会（公民）》 異議なし</p> <p>《地図》 異議なし</p> <p>《数学》 異議なし</p> <p>《理科》 異議なし</p> <p>《音楽》 異議なし</p> <p>《美術》 異議なし</p> <p>《保健体育》 異議なし</p> <p>《技術・家庭（技術）》 異議なし</p> <p>《技術・家庭（家庭）》 異議なし</p> <p>《英語》 異議なし</p> <p>《道徳》 異議なし</p>
会長	<p>全ての種目について、調査員代表から推薦された教科書発行社を選定した。</p> <p>今後のスケジュールについて、事務局から説明されたい。</p>
事務局	資料により説明（資料6）
会長 委員 事務局 委員 事務局	<p>今後のスケジュールについて、質問・意見等はあるか。</p> <p>第3回採択協議会はオンラインとのことだが、方式は何か。</p> <p>Microsoft Teams である。</p> <p>教育委員会で諮る際に、教育委員にはどこまで提示してよいのか。</p> <p>本日配布した資料一式を用いて教育委員の皆様にご説明いただきたい。資料のデータは改めて各市町担当者にメールで送付する。</p>
会長	以上で第2回浜田地区教科用図書採択協議会を終了する。